

# Team イワスタの取組

## 1 ねらい

- ① 5・6年生が、よりよい学校生活を築くために自分や自分達ができることを考え、実行していくことで、高学年としての喜びと自覚をもつことができるようにする。
- ② 5・6年生が、一つのチーム（学級）として活動することで、学年の垣根をとりのぞき、5・6年生の結束力を高め、高学年がよりよい学校生活を築いていくことを学校全体に広げていくことができるようにする。

## 2 具体的な取組内容一覧 ※今考えられること

- ① 「Team イワスタ」の結成（5・6年生を1学級にする）
- ② 「Team イワスタ」で考える委員会活動
- ③ 5月の花背山の家での「Team イワスタ」合宿
- ④ 7月の修学旅行での「Team イワスタ」Zoom 中継と事後報告会
- ⑤ 10月運動会での「Team イワスタ」を中心にした学校づくり
- ⑥ 卒業式を終点とした「Team イワスタ」の解散式と引継ぎ式

## 3 「Team イワスタ」の結成

- 5・6年生を一つの学級とした出席名簿（通し番号 47001～47107）と、それに伴う名札を作る。※47は、開校 47 年目を示し、5・6年生合同の五十音順名簿を作成。
- 5・6年生を集め、「Team イワスタ」結成について伝える。  
「イワスタ」とは、「イワ＝岩倉北」という意味がこめられ、スタには「スター」「スタッフ」「スタイル」などの意味がこめられる。5・6年生は岩倉北のスターであり、学校を作っていくためのスタッフである。そして5・6年生の協働的な活動によって、岩倉北オリジナルの「イワキタスタイル」を作っていこうという Team（学級）であることを伝える。
- 顔合わせは、4月12日の週の初めの方に行いたい。一堂に集まりたいので、晴れた日に運動場で行うようにしたい。全体の指導は、松村（6人の担任の誰かが前に行くと、子どもの中で担任か担任でないかの意識が生まれそうなので、教務主任が代表する ※3組担任2名も Team イワスタ担任団に含める）で行う。

## 4 「Team イワスタ」で考える委員会活動

※委員会活動というネーミングも新しくしてもよいかも

- 4月12・13日の間に、松村（4クラス同じものを考えたいので※3組は3組独自の活動ではなく、6年所属として活動する）が5・6年生の4クラス（※3組児童が6年生入っているときに実施。3組担任も1名6年教室に行く）に出向き、「住みたい町はどんな町？」と題した授業をする。この授業のねらいは、一人ひとり多種多様な考え方があり、みんなが住みたいと思える町を作るためには、様々なことに目を向けていかなければならないことに気づく、というものである。この授業の中で、「わたしの住みたい町」を、子ども達はピラミッドチャートのようなもので表す活動を取り入れる。
- 「住みたい町はどんな町？」の学習でつくったピラミッドチャートをもとにして、子ども達が一番に大切にしたいと思っている「仲良しの町」「安全な町」「きれいな町」といったキーワードをもとに、「Team イワキタ」の中に、小グループを作る。そのうえで、「住みたい町はどんな町？」を「通いたい学校はどんな学校？」という言葉に置き換え、小グループごとに学校に必要な「委員会活動」を考える場面を設定する。
- 子ども達が考えた意見を、子どもたち自身でまとめたり精査したりしながら、いくつかの「委員会」をつくる。そして、子どもたち自らが「やってみたい！」と思う委員会に所属できるようにする。4月末には所属する委員会が決定できるようにしたい。

## 5 5月の花背山の家での「Team イワスタ」合宿

- 4月中頃から、「Team イワスタ」で、花背山の家での活動について考えていきたい。「Team イワスタ合宿」というネーミングで、Team イワスタのメンバーで過ごす花背山の家でどのような活動を取り入れていけばいいかの意見を出し合いながら、活動の全体像を考えていきたい。そのときに、花背山の家だからこそでできる活動と Team イワスタのメンバーで行くからこそという2つの視点をミックスして考えていきたい。例えば「野外炊事で協力してご飯を作っておいしい食事をいっしょに食べたい」など。
- 6年生は4年生の時に「みさきの家」に行っているので、その経験を生かして、5年生をリードできるようにしたい。
- 5年生も3年生時の「3・6年合同宿泊学習」での活動を思い出し、6年生に任せるのではなく、主体的に活動できるようにする。
- グルーピングについては、5・6年生の子ども達が少しでも多くの仲間と関わることができるように、固定化せず、活動によって変えていってもいいかもしれない（選択制・希望制・目的別・活動別等のネーミングで）。ただし、不安を抱える児童もいると思うので、十分な配慮をしたい。※野外炊事でのアレルギー対応も児童の主体性と安全面の両方の視点から決定をするのではなく、検討をする。

## 6 7月の修学旅行での「Team イワスタ」Zoom 中継と事後報告会

□修学旅行の様子を Zoom を使って 5 年生にライブ中継する。行程的に言うと、姫路城に着いたとき、美観地区に着いたとき、宿舎を出発したバスの中の様子、平和記念公園での平和の集いを行っているときなどが考えられる。特に、姫路城については、「世界遺産の姫路城の見どころ3つ！」と題して、子ども達が姫路城の建物の写真を撮り、帰ってきてから事後報告のひとつとして、5 年生に伝える活動を取り入れてみたいと考えている。もちろん、平和学習での千羽鶴の活動を 5 年生に協力してもらおうということも考えられる。（全校に広げた方がよい？）

※タブレットを使って撮影をすれば、通信可能な場所で写真を提示してのライブ中継も可能となる。学区内で「イワキタのふしぎ発見」的に低学年向けのライブ中継を行ってみてもよい。

## 7 その他（特別活動部会として）

①たてわり活動の実施（昨年度のイワリィ DAY のような活動・たてわりウォークラリー）

※たてわり活動は、1～6年生の縦割りだけでなく、低中高学年の2学年縦割りや、1・6年、3・6年、2・5年等の縦割り活動を効果的に活用する。

②1年生を迎える会 → 実施時期 実施の形式 たてわり活動とのコラボ

③運動会に向けた取組 → 委員会発足後に子どもと一緒に早めに考え始める

④6年生を送る会 → イワリィ DAY での感謝を伝える場からの発展